



## この出会いに今 どんな楽しいことがあるだろうか？

国際ロータリー 第2650地区

2002～2003年度 ガバナー 岡村 吾郎

私達の人生は多彩な出会いの連続であります。風物と自然との出会い、言葉や本との出会いがあります。最もすばらしいのが人との出会いであります。

人の出会いには、お互いの事情が少しでも異なっていたら無かったこともあるでしょう。思えば、その時の出会いには、その人の人生最高の感動的な時でもあるのです。その出会いを無にしないように友情を築いてゆきましょう。

その出会いの時のひと言に温かい言葉をかけましょう。温かい言葉を受けた人が、次の人に温かい言葉をかけ、また次の人へとかけ続けます。一人の温かい言葉が人間関係の友情に波及し、それを基にして、平和な社会が世界に拡がってゆくのです。

その出会いには微笑みが必要です。笑顔に向けられた人は自然と心が和んでくるものです。また自分自身、笑顔をつくることによって力が湧き幸運を運んでくるのです。

私達のロータリー綱領の中にうたっています。



ビチャイ・ラタクル氏とともに



「全世界のロータリアンの親睦と相互の理解によって世界の平和を目指す」と。

ここで、面白い例を述べましょう。

私達人間がはき出している息は、

どんな状態でも同じでしょうか。この事について実験したアメリカの心理学者が、人間がはき出す息をガラス管に入れ、液体空気で冷やし、その沈殿物を比較しました。すると怒っている人の色は栗色、悲しみや苦痛の状態にいる人の色は灰色、また後悔に苦しんでいる人の色は淡い紅色、心が健全な人は無色という実験結果が出ました。怒っている人の沈殿物をねずみに注射すると数分で死んでしまいました。

この実験で私達の日々の生活に微笑みが如何に必要であるかが解ります。出会いによる友情、微笑み、温かい言葉、そこに奉仕というものが誕生します。これ即ちロータリークラブの真髄であるとポールハリスは考えたのです。

随って、ロータリークラブが100年も栄え、続いているのです。私達はロータリークラブの出会いを大切にして、お互いの友情、微笑み、温かい言葉を失わず、慈愛の種を播き、平和の花を咲かせましょう。

ロータリークラブは永遠です。



サムエル夫妻とともに



# R I 2650地区 地区大会の御礼と感謝

国際ロータリー第2650地区  
2002～2003年度 ガバナー 岡村吾郎

Samuel A. Okudzeto R I 会長代理をはじめ、2650地区ロータリアンのご支援により、地区大会を無事終えることができました。意義ある大会ですばらしい交流ができましたこと、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

地区大会委員長 箸尾 達哉

R I 理事サムエル・オクゼット氏をR I 会長代理に、そしてR I 元理事千玄室氏、小谷隆一氏を迎えて、2003年4月5日、6日の両日、奈良市 なら100年会館においてR I 2650地区 地区大会を開催し、2100名を超えるロータリアン・青少年の参加のもと成功裡に終えることができました。

ご参加いただいた2650地区ロータリアンの皆様に心から御礼を申し上げます。

今年度R I テーマ“慈愛の種を播きましょう”にそって、大会テーマを“慈愛の心”と定め、また心づくしの大会を目指してまいりました。“慈愛の心”を表すために、世界の恵まれぬ子供達のために『慈愛基金』チャリティバザールを行い、本会議の席上において岡村ガバナーに贈呈することができました。さらにポリオ撲滅募金キャンペーンを推進するべく、特別プログラム“ポリオ撲滅募金チャリティコンサート”を企画実行し、来場された市民の皆様にも1000円募金をお願いし、多くの浄財が寄せられて、200万円の募金をポリオ撲滅募金委員会・日本委員長千玄室氏に贈呈することができました。

“慈愛の心”は善意から発するものであり、ロータリアンそして市民の皆様から寄せられた善意が明日の世界を荷う子供達の健やかな成長に少しでも役に立つことができれば、これに選るものはありません。

この地区大会において、“慈愛の心”を表す二つの事業を実現できましたことに、深い感謝の意を表し、御礼を申し上げます。

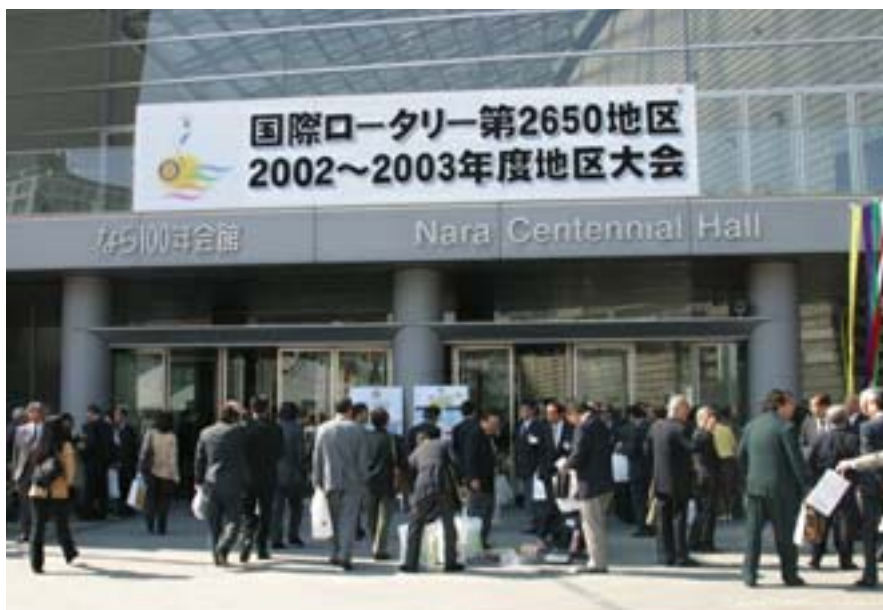
ありがとうございました。



▲サムエル・オクゼットR I 会長代理



▲岡村ガバナー



▲会場玄関



▲会場全景



▲ポリオ撲滅募金キャンペーン特別プログラム  
“ポリオ撲滅募金チャリティコンサート”



▲200万円の募金をポリオ撲滅募金委員会・日本委員長  
千玄室氏に贈呈



▲『慈愛基金』チャリティバザール



▲箸尾大会委員長



▲茶席



▲友愛広場

## 地区大会決議

山室義郎大会決議委員長より地区大会決議案が上程され、16の決議案全てが原案通り可決されました。

- (決議第1号) 2002~2003年度国際ロータリー・テーマ実践に関する件
- (決議第2号) 国際ロータリー会長に対する感謝の件
- (決議第3号) 国際ロータリー会長代理に対する感謝の件
- (決議第4号) 国際ロータリー第2650地区直前ガバナー西村二郎氏に対する感謝の件
- (決議第5号) ガバナーノミニー確定宣言歓迎の件
- (決議第6号) 2004年6月にシカゴに於いて開催され国際ロータリー規定審議会に立法案を提出する件
- (決議第7号) 2004年「関西」RI国際大会に協力する件
- (決議第8号) カンボジアでの世界社会奉仕活動に協力する件
- (決議第9号) 2003年ブリスベン国際年次大会への参加に協力する件

- (決議第10号) 2003年ブリスベン国際RYLA大会への参加に協力する件
- (決議第11号) ロータリー友情交換プログラム実施の件
- (決議第12号) 2003~2004年度研究グループ交換実施の件
- (決議第13号) 敦賀西ロータリークラブ拡大に関する感謝の件
- (決議第14号) 第2650地区地区大会開催地奈良市に対する感謝の件
- (決議第15号) 地区大会ホストクラブ及びコ・ホストクラブに対する感謝の件
- (決議第16号) 次年度地区大会開催の件



国際ロータリー第2650地区2003~2004年度地区大会は、京都市城陽、京都田辺、京都山城、京都八幡、宇治、宇治鳳凰の6ロータリークラブ共同ホストとして2003年11月15・16日けいはんなプラザ・同志社大学田辺キャンパスに於いて開催することを議決しました。

## 国際ロータリー5010地区との友情交換ご報告

地区国際交流委員会委員 大谷 信幸（生駒RC）



R I D5010パストガバナーSteve K.Yoshidaご夫妻をはじめ4組のご夫婦がR I D2650との友情交換プログラムでお越しになりました。

4月3日に関空にお迎えに上がり、松井米蔵様（王寺RC）のお計らいで日本最初の世界遺産「法隆寺」にご案内いただきました。

4月4日、日本のルーツである飛鳥1日観光に出かけました。青少年交換留学生のクリスティーナさんとスナンダーさんも参加。生憎の雨の中、高松塚古墳を見てから壁画館に入りました。皆様、大変ご熱心に質問をされてました。昼食は古代米御膳（黒米・呉豆腐）で、ヘルシー食で好評でした。昼食後、桜満開の石舞台古墳を見学し、裏山を1時間余り散策いたしました。雨に煙る満開の桜や桃の花は一層美しく、棚田や柿畑そして古い民家など日本の原風景を楽しんで頂きました。飛鳥藍染織館まで歩き、渡辺館長の藍染古布コレクション・鈴木正彦先生の土鈴コレクション・シノイサムさんの写真ギャラリー等を見ました。通訳の佐野純子様のご配慮で奥のお座敷で、コーヒーと芋きんつばを頂き、皆様ほっと一息つきました。

休憩後バスで日本最古の寺院飛鳥寺へ到着。奈良の大仏より150年古い飛鳥大仏を見学しました。奈良駅で遅くなりましたが解散。

4月5日、午前中は東大寺大仏殿を見学、南大門で昼食。午後、地区大会会長幹事地区委員長会議でプレゼンテーションをして頂き、会長代理歓迎晚餐会に出席、岡村ガバナーとプレゼント交換。その後、地区のロータリアンと歓談いたしました。

4月6日、皆様の希望で奈良国立博物館へ。古い仏像に興味一杯でY M C Aのボランティアさんに助けを頂きました。昼食後、京都伏見RCに引継ぎました。

4月11日、関空へお見送りで無事終了。

何もかも不慣れで無知で、おまけに英語も全くダメな私に貴重な体験をさせて下さった国際交流委員会の皆さんをはじめ今回お世話になったロータリアンの方々に心より感謝申し上げます。通訳の佐野様・須藤様、現地ボランティアの松村さんら3名の方、ご一緒できて勉強になりました。本当に有難うございました。

R I D2650のロータリアンの方々、是非アラスカへお出かけ下さい。委員会でお手伝いできることがあれば、お気軽に声をかけて下さい。アラスカの人々の日本文化に対する関心の強さ・旺盛な探究心に感嘆しました。同時に自分の日本の文化・伝統に対する不勉強を恥ずかしく感じました。

# 「私にとってロータリーとは友情・奉仕です。 ロータリー財団なくしてロータリーはない」

地区ロータリー財団増進委員会 委員長 公文 俊一（京都北東RC）

ロータリアンの皆様には、日頃からロータリー財団増進活動にご協力いただき誠にありがとうございます。ロータリー財団へご寄付いただくことで、ロータリアンの皆様のお一人お一人の温かいお気持ちが、この世界に広がっていることに他なりません。

その中でもロータリー財団へ多大なるご貢献を頂いたメジャードナー（2002年4月～2003年3月）の方々をご紹介します。メジャードナーの方々の言葉は、どんな説明より財団の必要性、財団への夢が雄弁に語られていると存じます。

これからもロータリー財団へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 「冠名奨学金基金」設立

大久保 昇（京都西南RC） 既に、ガバナー月信VOL.7に掲載しております。

## 「クリスタル」賞



原 賢治（福井北RC）

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の理想の下に、職業、地域を通じて一步一步ロータリーの心を打ち込んで励んでいます。さわやかな、気持ちでの奉仕の一つです。



神谷 保男（敦賀RC）

入会28年で頂いた栄ある賞です。「慈愛の種を播く」ため、いささかなりともお役に立てれば喜びに存じます。



吉水 清治（福井東RC）

国際ロータリーの発展にささやかな支えが出来て感謝しています。



西村 二郎（京都南RC）

クリスタル賞に感動し、私の心は癒されました。奉仕の喜びの種を播きながら「夢と感動と癒しの心」から世界平和に努めたいものです。



請田 安央（京都西RC）

無能の生涯 任騰々



郷田 紀明（京都洛中RC）

数年前から東京出張が毎週となり、例会出席等にも影響が出てきました。そのおわびに始めた寄付で賞をいただくことになりました。

浦川 博正（京都西南RC）

地球上から戦争がなくなり、少しでも病気と貧困の減ることを祈って止まない。その一助になれば幸甚。

永井 啓之（京都北東RC）

2002.3.6 退会

## 「遺贈友の会」入会者



桜澤 仁志（京都洛南RC）

Seeds of Love

2002年7月13日の地区ロータリー財団研修セミナーにて、出席者の皆様に本年度のテーマ「慈愛の種を播きましょう」にちなんで、お土産としてお花の球根をお渡ししました。私の家ではこのように咲きました。本年度もあと2ヶ月、皆様のお力で奉仕の花が咲きますようよろしくお願い申し上げます。



# 研究グループ交換

# Group Study Exchange

## ミズーリ州からのG.S.E.チーム来日

### G.S.E.受入れ

奈良大宮ロータリークラブ 国際奉仕委員会副委員長 高辻 良成

3月21日 晴れ

イラクへの空爆が昨日から始まり、世界情勢が混沌とする中、5名全員の屈託のない笑顔で、今年度のG.S.E.が幕を開けた。ホテルまでの2時間、バスの中でお互いの自己紹介に時間を費やしたが、彼ら全員、事前に日本についてしっかり勉強してきたことに驚いた。ホテルで最初の食事を共にするが、全員、日本食にも抵抗なく舌鼓を打ち、箸も器用に使うことに、またびっくりであった。

3月22日 雨

慈光院にてお茶席を体験。ローリーの所作が初めてとは思えないほど、上手であった。その後、法隆寺を見学したが、せっかくの風景も雨にたたられ、残念であった。

3月23日 晴れ

いちご狩り、もちつき、ピクニック。他にも女性陣は美容院、ネイルアート等の身だしなみに気をつかい、男性陣はボーリングで体をほぐすなど、ホストファミリーとともに、それぞれの休日を楽しむ。

3月24日 晴れ

積水ハウス研究所、ATR、関西セキスイ工業を見学。最先端の日本の工業技術、研究に触れてもらう。皆、熱心



に説明に耳を傾けていた。夕食はホストファミリーと共にし、更に友好と親睦を深める。

3月25日 くもり

興福寺、春日大社、東大寺を見学。悠久たる歴史の中に身を委ね、奈良公園では鹿とたわむれる。特に東大寺では、大仏様の大きさに驚嘆の声をあげ、当クラブの北河原会員による直筆の文字を揮毫した扇子をプレゼントする。その後、当クラブ例会出席。スピーチも皆、堂々としていた。例会後の懇親会にてカラオケも初体験(?)。

3月26日 晴れ

奈良市役所表敬訪問。市長と歓談した様子を奈良テレビが取材し、当日のニュースでそ



の様子が取り上げられた。その後、当クラブメンバーの会社である瓦道にてミニ鬼瓦作りを体験。子供のように、嬉々として土をこね、形を作り、デザインを工夫していた。

GSE受入れは奈良大宮RCがトップバッターで何もかも手探りの状態だったが、それゆえ、彼らも見るもの、聞くもの、食するものが初体験で、感動を顕わにしてくれた。

陽気で好奇心旺盛なトム、物静かで礼儀正しいマット、本当にお酒が強かったスーザン、親日家で仏教への興味も日本人以上なローリー、そして来日経験も豊富で、メンバーのまとめ役のロン団長。みんなみんな、とてもフレンドリーで、勉強熱心で、私の下手くそな英語にも我慢強くお付き合いいただいた、あつという間の1週間だった。

## ミズーリ州からのG.S.E.チームを迎えて

亀岡中央ロータリークラブ 幹事 古前 極

ミズーリ州からのG.S.E.チームを迎えての印象は、「台風のようにやって来て、台風のように去って行った」といったところだろうか。彼らの亀岡での滞在は5泊6日、あつという間に過ぎ去った6日間だった。

僅か29名のクラブがチームを受け入れるにあたって不安も多かった。先ずホームステイ先が見つかるかどうか？しかし、この問題さえ乗り越えれば後は何とかなるだろうとの思いもあり、半ば強制的にホームステイ先をG.S.E.特別委員会で決定。滞在中のスケジュールの調整も終わり、後はチームの到着を待つばかりとなった。

やってきたのはロン・ハンメル団長率いるいずれも肉付きのよい陽気な5人のアメリカン。先ず亀岡市長表敬訪問を終え、それぞれホームステイ先メンバーの車に乗って分散していった。



我が家にやって来たのはスーザン・グリフィスさん。お医者さんということで堅苦しいイメージを抱いていたが、大変フレンドリーな雰囲気です。ホットしたというのが正直なところ。妻も最初はいささか緊張気味だったが、ブロークンながら言葉をつなげる才能があるらしく、スーザンさんと打ち解けるのに時間はかからなかった。私の場合はそういった能力がないのは分かりきっている関係で、妻が食事の準備中退屈だろうと、下手な尺八を人に聞いてもらうのを無上の喜びとしている友人を呼び、食事前のしばしの時間、地元のお酒やビールを飲みながらの尺八演奏会を楽しんでいただいた。

日曜日は1日フリータイムということだったが、釣り好きの団長を京都市内の釣り具店に案内したり、ゴルフに誘ったりと休日もそれなりに忙しかったようである。日曜の夜は妻の提案でチーム全員を誘って知人の経営する居酒屋で亀岡の夜を楽しんでもらうことにした。

最後になりましたが、G.S.E.チームの受入が亀岡中央ロータリークラブのみならず、我が家にとっても記念すべき6日間になったことに感謝しております。





## 嗚呼 我がクラブ創立5周年

京都モーニングロータリークラブ 幹事 林 研志



去る4月12日京都ホテルオークラに於いて、250名近くのお客様をお迎えし、創立5周年記念式典を開催致しました。無事5周年を迎え、滞りなく式典も終えられたのは、創立時からサポート頂き、産みの苦しみを味わって下さいましたスポンサークラブの方々、又あらゆる角度からサポート頂いたロータリアンのおかげと、心から御礼申し上げます。

さて、当クラブは東京以西で初の朝例会（8:00～9:00）クラブで、最年長71歳、最年少39歳、平均年齢53歳のクラブの歴史もさることながら、メンバー自体も若いクラブであり、若さを生かした個性的な式典を企画致しました。

周年の為の事業もせず、我々が日頃取り組んでいる継続的な事業を、認知して頂くことで当クラブを理解して頂けたと思っております。「折角人、もの、金、時間を使って事業をするなら、無駄なことはしたくない」こんな思いを実行委員会に伝え、会長、幹事は外野席から応援することに致しました。

特に幹事の私が口を出さなかったお陰で、素晴らしい式典になったと思います。会社でもそうであるように、「何故だろう、俺がいないと、旨くいく」といったところです。

組織だって何かをしようとするとき、ちょっと外野席から覗くと日頃見えなかったものがよく見えたりするものですが、今回は、集団の中の『個』がよく見えました。またロータリークラブの運営というものが、如何に楽しく、難しいものであるか少しですが解ったような気がします。行動力のある人、そうでない人、こつこつ縁の下の力持ち、スタンドプレイのうまい人、しかし全体を見渡せば物凄いパワーで回転し、尻上がりに増幅しスピードも6速全開で、もう誰にも止められない状態です。誠、我がクラブは頼もしい。

会長のmindが、motivationとなり、memberが必要なmaterialとmachineを使い、最良のmethodで運営し、これらを理事会、実行委員会が、managementし、maintenanceしながら式典当日を迎えました。パストガバナー堀場雅夫氏に講演頂き、moralある式典となり、当クラブに大きなmeritが、生まれました。

もうお気付きだと思いますが、『M』が我々を成功に導いたパワーだったのです。

Mは、MORNING ROTARY の『M』なのです。

継続事業の、京都女子サッカーフェスティバルのサポート、カンボジアへの義肢義足支援を、このパワーで成功させることをお約束して5周年を終えた雑感とさせていただきます。

本当にこのクラブは面白い、是非一度ご来訪を、そして今後にご期待を。



## 創立20周年記念事業 小学生環境サミット

京都洛西ロータリークラブ 広報・雑誌・会報・記録委員長 前野芳子

去る2月22日(土)、京都市右京区地域の小学生が集まってゴミや環境問題について話し合う、小学生環境サミットを京エコロジーセンター会議室にて開催しました。

参加小学校は、宇多野小学校、御室小学校、嵯峨野小学校、高雄小学校、常磐野小学校、花園小学校、広沢小学校の7校の代表小学生、そして京都大学ゴミ部の大学生、各学校の先生、保護者に我がクラブ会員が加わり、総勢60名を超える参加者でした。



午後1時より開催に先立ち西村会長より挨拶があり、その後只木実行委員長の総合司会により進行、京都大学ゴミ部が「ゴミとはどんなものか？」等、質問をしながら、ゴミの実態を解り易く説明してくれ、小学生諸君だけでなく大人達にも勉強になりました。

その後、各学校から日頃の研究課題の発表が、御室小学校伊藤校長と京都洛西RC川島保男会員進行のもと行われました。「校区の川のゴミ調べ」「生ゴミ肥料について」「環境問題と身近な努力」「森林、自然保護の大切さ、紙の大量消費から古紙処理とゴミ問題を考える」「ゴミに対する取り組みと私達に出来ること」など、先生や保護者の協力はあるものと思いますが、小学生とは思えないような発表に驚きました。絵本を物語調に川の美観を訴え作成しての発表には感心させられました。この研究課題発表と意見交換をもとに、次に繋げるアクションによって、美しい街づくりにしよう！と結んで、大成功の内に終わることが出来ました。





## 社員教育はどうあるべきか

北 昭弘 (丸岡RC)

今日の厳しい経済情勢の中で、社員教育は、どうあるべきかを考えてみたいと思います。まず、社会人として、ビジネスを行う上で大事なことはマナーが大事と思われる。人との接触の中で、挨拶、言葉をかける。元気よく声をかけることにより、相手にも元気を与え、好感をもたれる。基本的な挨拶を特に大事にしたい。相手のいうことを素直に聞く耳を持ち、相手をよく理解するように努める。言葉づかいは、上司、目上の人には、尊厳の気持をもって接し、目下の人に対しても思いやりをもって接する。話し方のみならず、振舞方にも気を配るべきである。又、服装も社会人として好感のもてる服装、みだしなみに努める。ビジネスの中で、報告、連絡、相談、又、指示の受け方、確認の仕方が大事である。

仕事を円滑にするには、社内でのコミュニケーションが大事で、それがないと仕事がスムーズに気持ちよく流れず、時として、ミスをおかす原因にもつながる。機械化、自動化、ペーパーレス化が叫ばれる時代、が、社内、顧客との意思伝達がスムーズにいくような体制になっているか、上からの指示が正しくスピーディに届く体制になっているか、大事な事である。又、事を行なうのに、予定、計画がたてられているか？ 計画のない人は時間の無駄づかいが多く、ある人と比べるとかなりの仕事の差がでてくる。現在の仕事が次の人にどういう影響を与えるかなど仕事全体の中で自分の立場を考えて行動を行う体質になっていないと、次の仕事にも迷惑がかかることになる。計画の他、いかに効率よく回すかなど問題意識、改善意識をもって処すべきである。意識改革と共に、社内での整理、整頓、清潔をモットーにされているか。

仕事がスピーディにミスなく行なうために、物事が整理され、誰がみてもわかりやすく、フォローできる体制になっていることが大事である。社員1人

1人がそういう気持で仕事をすれば、時代の変化の中で、一丸となり、難局をのりこえていけるものと思う。

以上のような点を再度みなおし、人材を高めていくことが大事と思われる。さらに、経営者は、この難しい時代を見つめ、各社なりの方向づけを見いだし、社員に正しく伝達をし、方向づけを行なう重要性があることもつけ加えたい。良き社会人となり、仕事を通し、人との交わりを覚え、

1人1人の行動が明日への社会の活力とならんことを願う。



## 風力発電に未来を見た

矢谷 平夫 (峰山RC)

好転の兆しすら見えない景況感、繰り返されるリストラ…。先が見えない、この状況から脱出するためには、どうすればいいのか。だれもが模索しています。

しかし、見方を変えると、デフレ経済の今こそ、急成長を遂げた私たちの暮しを見直すいい機会ともいえます。

次の道は、循環型社会、持続型社会の形成にあるのではないのでしょうか。

日本を含め、先進国では石油に依存し、豊かさを享受してきました。資源は有限であるということ認識せずに、現代の社会システムを構築してきましたが、ここへ来て、このまま人類が活動が続けると、環境破壊が進み、地球そのものの存続が危ぶまれることが明らかになってきました。確かに、世界人口



の15%にあたる先進国の人々は豊かになりましたが、豊かさの影で、さまざまな問題を噴出させているのもまた事実です。

現代の社会システムを再構築すべき時が来ています。何より最優先すべきは資源問題です。「限りある資源」を世界共通認識に据え、これをどう活用するのか、どう持続させていくのか、人類が叡智を結集しなければなりません。いま時代のキーワードは「持続可能な社会の形成」。日本でも少しずつですが、資源を無駄遣いせず、使った資源を循環させる仕組みづくりや、そのための取り組みが始まっています。

2001年11月、京都府伊根町・弥栄町の両境に「太鼓山風力発電所」が開設されました。これは1997年に京都で開催された「地球温暖化防止会議」が採択されたことを契機に、京都府が環境対策、エネルギー対策として取り組んだもので、年間8500メガワットアワーを発電し、年間約5900トンの二

酸化炭素を削減するといわれております。風光明媚な丹後半島の山の頂でゆっくりと廻る6基の風車。この風景には、どうしても地球を守ろうとする私たちの強い決意が映し出されています。大気を汚す化石燃料に頼らないクリーンなエネルギーを最小限に使い、自然の恩恵に感謝しながら暮らす姿が見えてきます。最近、マスコミに度々登場する「スローライフ」という言葉は、持続型社会でのライフスタイル——急がずにゆっくりと日々を暮らしたいという将来の願望の表れであります。

今後は、クリーンな社会の形成に寄与することが何よりの職業奉仕であり、私自身の行動の基本に据えたい——と考えています。

忙しい日々の中ゆったりした時間が必要ではないか、ゆっくり生きようじゃないか。緑なす丹後半島の太鼓山、大きな風車を遠くに眺めながら、そんな思いを新たにしました。



## ロータリー情報委員会だより

### 2003年-2004年度にロータリー家族委員会の設置を

地区ロータリー情報委員会 委員長 瀧上 勝夫

R I 2003年-2004年度において、R I 会長、ジョナサン・B・マジアベ氏は、「ロータリー家族委員会」の設置を奨励しています。これはクラブの利益を助長するための活動及び親睦活動を主要とし、会員家族はもとより、非ロータリアン家族も歓迎し、少なくとも年数回は計画してほしい…と提案がなされています。

それで、まずロータリー家族の構成員、つまり現ロータリアン・元ロータリアン・ローターアクト・インターアクト・ロータリー物故会員の配偶者と子供などをプロジェクトにとりいれていくために、次のような事をみんなで考えてみましょう。

- ◎プロジェクトに関与するようにロータリアンの配偶者や子供に呼びかける。
- ◎家族を中心としたプロジェクトを開始する。
- ◎プロジェクトの変更点やプロジェクトを終了した後も、家族との連絡を維持しつづける。
- ◎家族員の専門知識をプロジェクトに活かす。
- ◎ロータリーのあらゆるレベルにおいて、ロータリー物故会員の配偶者を忘れず、大切にするためのプロジェクトを創始する。

例えば、誕生日、結婚記念日、祝日など、配偶者が特に寂しく感ずるような時に連絡する事で、自分が支援されていることを感じてもらう。

又、月間は特に決めてはないが、2月の「家族週間」を奨励します。

# 地区 探訪

地区内の伝統的な「行事」や「芸能」「食」  
などに関する話題を  
地元RCからお伝えします



## 「お綱はんの結婚式」… お綱まつりについて

桜井RC

北島 和典

伝統行事の最たるものは、農耕行事である。

これらの伝統行事は、今日昔日の面影がない。ここにご紹介する「お綱まつり」は伝統の古習を守り、今日まで伝承し続けられている特異な伝統行事である。

桜井市内の50戸程の農村・江包と万葉集に詠れた、はつせ川を挟んで南隣の90戸程の農村・大西の両大字で、毎年2月11日に「お綱はんの結婚式」が行われている。

ことの起こりは、昔、大洪水があって上流の三輪から2人の神様が流れつされた。江包は素芳鳴尊、大西は稲田姫をお助けした。その後毎年、旧正月に結婚式をあげるようになった。

江包は旧正月8日の午後11時に各戸新藁を一束ずつ持ち寄り、男綱をつくり、メ縄を張って10日の当日まで供えておく。この男綱の先は男性シンボルの象徴を示すもの。

一方、大西側は、旧正月9日に、各戸同じく新藁一束ずつ持ち寄り、女綱を作る。その形は舟型（いわゆる女型）でメ縄を張って10日まで供えておく。10日の当日早朝、大西では女綱をかつぎ出す。途中この1年



男綱の行列



エノキのふた股につるされた舟型

内に慶事のあった家々を祝い、また田で暴れ、泥んこになって相撲をとり、神社へと練っていく。神社にたどりつくると、神前のエノキの古木の2股に女綱をくくりつけて舟型を開き、男綱の到来を待つ。そのころ江包では、男綱の行列が村の東から南へ、その年おめでたごとのあった家々を祝って相撲場とよんでいる田

に来ている。ここで男綱を下ろし、みなで泥だらけになって相撲をとっている。そこへ大西から仲人が呼び使いにやってくる。この呼び使いが、7度半行き来して、やっと男綱は動き出す。そして待ちに待った男綱が到来するとただちに、いともおごそかな入舟の儀式となる。

その後、しっかりとくい入った両綱を木につるし上げ、いつまでも落ちないように樹木にしばりつける。

そうして、双方手打ちをし、式典が行われる。式後この時の神饌の、ひねりごくにしてある洗米をお下りとしていただく。江包ではこのお下りを持ち帰り雑煮に炊き込んでいる。

ともかく、この行事は古くからの田遊び祭りの一種で、豊作を願う農民の切なる祈りである。

最後に、この行事は人が扮するものではなく藁で作られており、それがまことに巨大であり、しかも厳粛な所作が守られていることがありがたい。

(祭りの内容については一部『桜井市史』を引用いたしました)

# 福知山城と福知山音頭

福知山西南RC
大槻 政和



明智光秀画像

## 福知山城

福知山城は、福知山盆地の中央にあり南から細長く突き出た丘陵を利用した城郭でした。天守閣は、丘陵の東端にあり、その下で土師川<sup>はぜがわ</sup>と由良川に合流し、東に長田野・由良川を望み北側には城下町が広がり、周囲をよく見渡せる要衝の地といえます。この城が、近古的な城郭に築城されたのは、天正7年（1579年）織田信長の命を受けた明智光秀が、丹波を平定した時から始まり、堀と土居に囲まれた城下町が、整備されたのは、有馬豊氏時代と考えられて



明智光秀家中軍法

います。地元の記録によると、光秀が横山城を福知山城に改め改築し、近隣寺院の石塔を集め石垣とし、由良川の流路をかえ、城下町を守る堤防を築いたとなっています。

## 福知山音頭

明智光秀の福知山城大改修の際、領下の者が、石材や材木を城に運ぶ時にドッコイセー・ドッコイセーと手振り、足振り面白く、唱い出したのが、そもそもの始まりであると伝えられています。

昭和29年全国民謡舞踊大会では、2位に入賞。翌30年の近畿大会では第1位を獲得しました。

福知山の夏の行事は、年間中で最も多彩で名物福知山音頭を始め、丹波大文字点火行事、山陰随一を誇る堤防まつり、花火大会など、旅人の興味を呼ぶに充分であります。



花火大会

“福知山出て

長田野越えて

駒を早めて亀山へ”

と歌いながら踊ります。



福知山おどり